

第2学年 国語科学習指導案

| | |
|-----|-------------------------------|
| 日時 | 平成23年11月 1日(火) 5校時 |
| 学級 | 2年A組(男子9名、女子7名、計16名) |
| 指導者 | 教諭 酒井 静 (T1) 講師 平井 達也 (T2) |

- 1 単元名 古典に親しむ
学習材名 「扇の的 - 『平家物語』から -」(光村図書「国語2」)
補助教材名 ・「ビギナーズ・クラシックス 日本の古典」シリーズ 「平家物語」他
(角川書店編)
・「まんが攻略BON! 中学古文」(学習研究社)
・「子供版 声に出して読みたい日本語 6 春はあけぼの 祇園精舎の鐘の声」
(齋藤 孝 編 草思社)

2 単元について

(1) 生徒の実態

1学期に実施した意識調査の結果を見ると、「友達の発表や説明を聞くときには、相手の考えと自分の考えを比較しながら聞いている」という項目について、90%近い生徒が「よくしている・どちらかというによくしている」と回答しており、聞く学習についての基本ができていることが分かる。しかし、国語科の学習全般に対する関心・意欲がやや低かったり、あるいは苦手意識をもっている生徒の割合が高いことも分かった。また、「目的を考えて話し合いをしている」「感想の交流をすることで自分の感想を深めようとしている」という項目については、「よくしている・どちらかというによくしている」と回答した生徒は約60%と、他項目と比較してマイナス傾向の回答がやや多い。このことから、目的意識を持って進んで学習に取り組んだり、友達と考えを交流することによってお互いの考えがより深まったりする経験が不足していることがうかがわれる。

本単元の学習に入る前の学習事前調査の結果からは、1年生時の古典学習についての記憶がほとんどない生徒や「難しかった、よく意味が分からなかった、テストの点が悪かった」という印象しか残っていない生徒が半数近くいる。また、古典学習の必要性については、「古典からも新しいことを学ぶことができる」「昔の文化や言葉を知ることは大切だ」と考える生徒が全体の約30%いる反面、「学習してもあまり役に立たない」「なぜ学習するのか分からない」と考える生徒も約25%いることが分かった。

これらのことから、学級全体として見たとき、古典学習に対する関心・意欲を高めるような工夫をしながら指導を行っていく必要があると考える。

(2) 学習材について

生徒の実態と年間指導計画から、本単元の主たる指導事項を「文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること【読イ】」および「文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと【読エ】」とする。また、「作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界を楽しむこと【伝国ア(7)】との関連を図りながら、生徒の古典に対する関心や意欲を高めるような授業展開を工夫する。

無常観を主題とした「平家物語」は、後世の文学や芸能はもちろん、日本人のものの見方、感じ方にも少なからぬ影響を与えている古典屈指の物語である。また、琵琶法師によって平曲として語られたことから、難解な言い回しや分かりにくい表現を避け、聞きやすい音律を文章に備えていることも大きな特徴である。音読・朗読・暗唱などを学習活動の中に取り入れることによって、練り上げられた文体がもつリズムを通して古典を味わうことができる作品である。古典作品のすばらしさにふれ文章に親しみ、古典学習に対する関心・意欲を高めるためにふさわしい学習材であると考えられる。

(3) 指導に当たって

①音読や朗読を取り入れた授業展開の工夫

生徒の実態と学習材の特徴とをふまえ、学習活動の中心に音読・朗読をしっかりと位置づけていきたい。繰り返し音読をすることを通して、歴史的仮名遣いに対する抵抗感を取り除くことができるようにするとともに、文語文の表現に慣れることによって特徴をつかんで読み味わうことができるようにしていきたい。

学習形態としては、ペアやグループでの音読・朗読の場面を設定し、「聞き合う」ことを大切にしながら感想交流へつなげて行くようにしたい。

②T・Tを活用した授業展開の工夫

個人差が大きいという学級の実態から、個に応じた支援が重要であると考え、T・Tによる指導を行う。個への支援を充実することによって、自分の感想をもてないまま授業が進んでいくという状況がないようにしたい。特に、観点に沿った感想を具体的にもつことができるように、T2が効果的な声かけや支援をしていくようにしたい。学習内容の理解に時間がかかる生徒や学習意欲の低い生徒に対する支援を充実させ、古典学習の楽しさを経験することによって、国語科学習に対する意欲・関心を高めていきたいと考える。

③単元における言語活動

読むことの言語活動例「詩歌や物語などを読み、内容や表現の仕方について感想を交流すること」を具体化した「感想交流」の場を、単位時間の中に確実に位置づけたい。その中で、表現の工夫や登場人物の心情、当時の人々のものの見方や考え方など、観点に沿って個々が自分の感想をもち、ペア学習やグループ学習の中で、主体的に感想交流ができるような授業展開を工夫したい。

3 単元の目標

- (1) 古文や漢文に描かれたものの見方や考え方、生活の仕方などについて関心をもち、進んで感想を交流しようとする。
- (2) 古典表現における描写や口語訳の内容から、登場人物の言動の意味や心情を考えながら内容を理解するとともに、そこに表れている見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつことができる。
- (3) 作品の特徴を生かして音読や朗読をしながら、古典の世界を楽しむことができる。

4 単元の評価規準

| | 国語への関心・意欲・態度 | 読む能力 | 言語についての知識・理解・技能 |
|------|--|---|--|
| 評価規準 | 古文や漢文に描かれたものの見方や考え方、生活の仕方などについて関心をもち、進んで感想を交流しようとしている。 | ① 古典表現における描写や現代語訳の内容から、登場人物の言動の意味や心情を考えながら内容を理解して、感想を交流している。(イ) ② 文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連づけながら自分の考えをもち、交流している。(エ) | ① 作品の特徴を生かして音読や朗読をしながら、古典の世界を楽しんでいる。(ア(ア)) |

5 単元の指導計画（全11時間 本時 5 / 11）

| 時 | 主たる学習活動 | 評価する内容 | 評価方法 |
|---------------------------------------|--|---|---------------------|
| 1 ・ 2 | ○4つの教材を概観し、古典学習の学習計画を立てる。 ○「枕草子」の音読や暗唱を通して、言葉の響きやリズムを楽しみながら内容をとらえる。 | ・古典作品の感想や学習計画について意見を交流し、古典学習に進んで取り組もうとしている。 【関】 ・「枕草子」の内容や特徴を考えながら音読や暗唱をし、作品世界を楽しんでいる。 【言】 | 観察 ノート |
| 3 ・ 4 ・ 5 本時 ・ 6 | ○「平家物語」の冒頭を読み、物語の時代背景をとらえる。 ○時代背景と現代語訳を確認しながら、「平家物語（扇の的）」を音読する。 ○「扇の的」前半に描かれている場面の情景や登場人物の言動について、感想を交流する。 ○「扇の的」の後半部分から、当時の人々のものの見方や考え方について自分なりの感想をもち、交流する。 | ・古典表現における描写や現代語訳の内容から、登場人物の言動の意味や心情を考えながら内容を理解して、感想を交流している。 【読 ①】 ・文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連づけながら自分の考えをもち、交流している。 【読 ②】 ・作品の特徴を生かして音読や朗読をしながら、古典の世界を楽しんでいる。 【言】 | 観察 ノート ワークシート |
| 7 ・ 8 | ○「徒然草」の冒頭と「仁和寺にある法師」を読み、物語の時代背景をとらえる。 ○兼好法師の物の見方や考え方について自分なりの感想をもち、交流する。 | | 観察 ノート |
| 9 ・ 10 | ○「漢詩の風景」を読み、漢詩を読むための基礎的な知識を知り、漢詩特有の調子を感じながら音読する。 ○漢詩を読み、情景や心情を想像して、感想を交流する。 | ・漢詩の特徴を生かして、音読・朗読をしながら、作品の世界を楽しんでいる。 【言】 ・漢詩における描写や現代語訳の内容から、情景や心情を想像しながら内容を理解し、感想を交流している。 【読 ①】 | 観察 ノート ワークシート |
| 11 | ○4つの古典作品を学習し、自分の感想や交流し合った感想についてまとめ、作品の紹介文を書く。 | ・古典作品に描かれたものの見方や考え方、生活の仕方などについて関心を深め、進んで感想をまとめようとしている。 【関】 ・文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連づけながら自分の考えをもち、交流している。 【読 ②】 | |

6 本時の指導（5 / 1 1）

(1) 目 標

- 「扇的」の前半を、場面の様子を思い浮かべながら音読し、情景や与一の言動から与一が扇を射抜こうとする心情について感想をもち、交流することができる。

(2) 展 開

| 段階 | 学習活動 | 学習内容 言語活動 | 指導上の留意点 ◇ 評 価 |
|----------|---|---|--|
| 導入 5分 | 1 前時の内容について想起する。 2 本時の学習課題を確認する。 扇を射ようとする | ・与一が扇を射ることになった経緯 ・与一と扇との距離や位置関係 | ○前時に使用した紙板書などを活用して、前時の内容を視覚的に確認する。 |
| 展 開 | 3 学習の見通しを確認する。 ・学習場面の確認 ・学習方法の確認 4 学習課題を解決する。 (1) 情景を表す言葉を見つけ、場面の状況について考える。 (2) 与一の言動から心情について想像する。 (3) 与一の心情について感想をもち、交流する。 | ○学習場面は「扇的」の前半（P114L11 まで）であること。 ○文語文や現代語訳から状況を理解すること。 ・「北風激しくて」「磯打つ波も高かりけり」「揺り上げ揺りすゑ漂へば」などから、悪条件の中で矢を放たねばならない与一の状況 ○文語文や現代語訳から与一の心情を想像すること。 ・与一の念じた内容や「祈念して」「目を見開ひたれば」などから、命がけで扇を射ようとする与一の心情 ○「与一の心情について、共感できるかできないか」という観点で感想をもつこと。 与一の心情について感想をもち、交流する | ○状況理解→心情の想像→感想交流・音読表現という学習の流れを確認する。 ○学習の流れを意識しながら、本時の学習場面を音読する。（個人音読・ペア音読） ○状況がわかる言葉を原文から見つけ、サイドラインを引かせる。 ○ T 2 は、本時全体を通して、チェックシートに基づいて個別支援を行う。 ○与一の念じた内容について、文語文と現代語訳を対照しながら確認する。 ○「どういう点で共感できる（できない）か」ということを明確にして感想交流を行わせる。 ○ T 1・2 は、担当グループを中心に机間指導を行う。 |

| | | | |
|-----------|--|--|--|
| 展開 40分 | (4) 学習場面を音読する。 | | ○ 交流した内容と結びつけて、音読の仕方を考えさせる。 |
| 終末 5分 | 5 学習を振り返る。 6 次時の内容と家庭学習での取り組みを確認する。 | | ○ 単元の学習シートに記入させ、それに基づいて学習の感想を交流する。 ○ 与一が弓を放った後に、話がどう展開していくかについて興味をもたせ、家庭で音読してくることを確認する。 |